

新イベント「なつこぶ」で行われた、そうめん流しならぬお菓子流しの様子です！



平穏な日常の ありがとう

理事長 荏部 一夫

残暑が続いておりますが、虫の音や木々の実りに日一日と秋の深まりを感じる今日この頃です。オミクロン株もようやく落ち着くのではと期待しながら、改めて平穏な日常が戻ることを祈るばかりです。さて、この平穏な日常がいかんかありがとうございますことかと考えさせられることが度々あります。今、世界は実に混とんとしています。大きな価値観のぶつかり合いとでもいいますよるか、様々な考え方が錯綜しているように思います。そのことが今後、私たちの日々の生活にも大きく関与するだけでなく、今の平穏な日常が崩壊する事態になりかねない危機感すら感じています。

その一つの例をあげると、唯一の被爆国である日本の高校生は、平和を求めて原子爆弾の廃絶を訴えますが、戦火の真つただ中のウクライナの学生は、「武器を持たなければ自分も家族も守れない。平和は武器によつて取り戻す。」と訴えます。核廃絶を進めるにも、核を保有する事自体を否定する被爆者もいれば、より現実路線として大国の核の傘下で縮減していくという核保有容認の政治家もいます。脱炭素社会への道のりも同様に、一刻も猶予はならないとする考え方（スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさん）もありますし、自然エネルギーの安定供給が難しい現状では原子力に頼らざるを得ないとする主張もまた根強くあります。

さらに、アメリカの銃規制についても、自己防衛のために銃は所持するという考えと、銃犯罪を誘発する原因となっている銃をすぐにでも規制すべきだとする主張は対立しています。そして詰まるところは、ロシアとウクライナに代表される支配圏の主張です。その根底にあるのは一地域の歴史的帰属の解釈にとどまらず、基本的な価値観の相違なのです。誰もが自由に意見を言うことに価値をおく自由主義と、一定の制限を加えてでも理想に近づくためには統制が必要とする専制主義です。そのどちらに価値をおくのか、世界はこの二つの価値観の間に存在する溝に引き裂かれるがごとく、対立を強く意識するようになっていきます。こうした様々な混とんとした状況を乗り越えることは一朝一夕にはいきませんが、今できることと言えば、私たち一人一人が、生き方の軸をしっかりと持ち続けることではないでしょうか。

誰もが自分の考えを言える社会（風土）を築くこと。意見や考え方の違う人の存在を抹殺（否定）しないこと。それは、自由を根底にしながらも、ヘイトスピーチや兵器に代表される「存在を否定する手段」を認めることなく、決して冒してはいけない『人権を尊重』していくことに尽きると考えます。龍鳳での毎日にその実践を努めてまいります。

“ねえねえ、きいて”

＜中村 恵美子＞

女性利用者Aさんから帰りに、「中村さん！Bさん（利用者）かっこいいよね」と声をかけられました。「どういうところがかっこいいと思ったの？」と聞くと「私が大変な時に助けてくれるところ」と仰ってました。Aさんって、そんな事思いながら働いてるんだなとほっこりしました。

いつも帰りに「ふん」と片手を挙げながら帰りの挨拶をしてくれていたBさん。最近、帰りは手を振って、「さようなら」と言ってくれるようになりました。次いで休みの前の日は「コーラとみたらし団子」と、お休みの日に買い物するものを教えてくれるようになりました。次は何を買うのかな？と毎回聞けるのが楽しみです。

キラリ☆と光るこの一枚



調理活動の仲間で1枚パシャリ
(矢部 帆乃)



シルバーゲームの新メンバーです☆
(吉井 友美)

十人十色

毎年、複数の学校から実習生の受け入れをしています。四字熟語の中に“十人十色”という言葉が存在するように、こぶしの支援者も利用者さんも実習生も皆、好みや意見が異なっていてそれぞれです。“みんなちがって、みんないい”という言葉の通り、一人一人に個性があり、その個性の中に可能性が秘められていると感じます。

実習生を受け入れると、実習生対応にはじまり、日誌添削や巡回指導、反省会、評価等々ありますが、それぞれに個性がある分、頭を悩ます事も沢山出てきます。中でも“日誌の書き方について”は難しい点が多いのですが添削する中で学ぶ事も多く、実習生を迎える度に成長していく自分を感じさせていただいています。

実習生を迎えるに辺り、実習生の可能性をどこまで伸ばせるか、十人十色の個性を引き出しつつ良い所をどれだけ増やせるか考えていながら、実習課員として取り組んでいきたいと思えます。

フォトニュース ～8月の様子～

見方を変えれば

7千旅行に行きました！



航空公園 & ドライブ！

2人でカラオケ！



なつこぶ！ & 笑顔！



突然ですが、皆さんは仮面ライダーやスーパー戦隊（昔で言う所のゴレンジャー）は好きですか？私は今でも好きで、仮面ライダーなどの特撮ヒーローを観ています。

小さい頃と現在とは、見方が変わりました。もちろん小さい頃と同じで、変身や必殺技に魅力を感じますが、大人の視点で見ると敵の組織の方が、目的を持って行動している事に気付きました。敵は世界征服という目的を実現する為、悪の首領は幹部や部下の怪人達に、どんな手段を使って街を混乱させるのか聞きます。部下の怪人達は色々な手段を考えます。例えばダムを決壊させ、人々を混乱させる等。手段を実行する為に、幹部が怪人や戦闘員に指示を出し、現地で実行します。時には戦闘員から意見を聞く場面もありました。

ここからは語弊のある言い方になりますが、私が敵の組織と、こぶしの組織を照らし合わせた時に思った事です。悪気はないので、ご愛嬌という事でお読みください。

敵の組織と、こぶしの組織を照らし合わせた時に、悪の首領は施設長・首領を補佐する怪人はサビ管・幹部の怪人は部長・毎回ヒーローに倒される怪人は課長・戦闘員は課員に置き換える事が出来ます。こぶしの組織で考えた時、こぶしの悪の首領…すいません間違えました。施設長が施設の目的を決め、その目的をサビ管に通し、部長が目的に必要な事を課長に伝えます。課長は課の計画を立て、具体的な手段を考えます。考えた手段を課員に指示を出し、課員は計画に沿って業務を行います。これをイメージしてテレビを観た時に、見方を変える事で、新たな視点で特撮ヒーローを楽しむ事が出来ると分かりました。

これは現場でも同じで、課長たちが決めた内容に対して、課員から意見を聞く事で、今まで考えた事のない、物の見方を聞く事ができます。目的を達成する為には、手段が多い方が実現できる可能性は多くなります。一人で考え込むと物の見方が凝り固まり、手段が少なくなります。仕事を楽しむ為には、色々な人の意見を聞いて、見方を変える事が大切だと私は思っています。今後も特撮ヒーローを楽しむように、見方を変えて仕事をしたいと思えます。

生活支援員 丸山 耕太郎

事務コラム 《知りたい！事務のお仕事！》

こんにちは！こぶし事務室です。

事務室を皆さんにもっと身近に感じてもらいたく、今回はあまり知られていないこぶし事務のお仕事の紹介をしたいと思います。

こぶし事務室では、大きく分けて①利用者さんや職員の日常生活・活動のサポート②報酬請求業務の2つがメインの業務となっています。①は皆さんがご存じの通り、様々な物品備品の管理発注、日常的な金銭の出納管理、書類や情報の管理、渉外、広報など、主に利用者さんの生活や職員の業務が滞りなく行えるよう準備や対応をする、いわば黒子的なお仕事です。②は、利用者さんに対して実施したサービスの内容を国や自治体に報告し、それに応じた報酬を請求する業務です。それによって得られる収入がこぶしの運営費となるので、非常に重要な業務です。これには正確な情報を必要とするので、支援業務担当の職員が毎日入力をしてきている詳細な記録を頼りに、緊張しながら業務を進めています。つまりのところ、事務のお仕事はいわゆる「サポートする業務」と思われがちですが、本当はたくさんのサポートを受けて日々成り立っているのです。

皆様のご協力で事務室が動いています！いつもありがとうございます。



課長

今年度から施設環境課の課長に任命されました。昨年度末に課の運営計画や予算を立て、業務整理表を作成し、課員の業務内容を管理し、それぞれに過不足なく仕事を振り分ける、という今まで経験したことがない業務内容の数々に戸惑いや不安を覚えました。分からないことだらけでしたが、先輩職員に助けをいただき、なんとか今年度の施設環境課のスタートを切ることができました。

早いもので4ヵ月経ちました。課長として施設環境課の様々な業務に取り組んでいます。その中での業務の一つとして、設備修繕・不足物品購入があります。既に多数の依頼が来ていますが、予算が限られているため、何でも購入する訳にはいかないとの指摘を以前受けました。本当に必要かどうかを考慮して購入物を取捨選択する難しさを痛感しました。

今後も上手くいかないことが多々あると思いますが、その中で得た経験を糧に学び・成長し、課長として相応しい職員になれるよう引き続き業務に励みます。

生活支援員 川瀬 涼太